

新年のご挨拶



二松学舎大学
父母会報

平成5年5月10日創刊
令和2年1月20日発行
(第107号)

二松学舎大学父母会
(本部・事務局)

東京都千代田区三番町6番地16
二松学舎大学学生支援課

題字は
故 観山貞広常吉先生書



父母会長
中澤 稔



新年明けましておめでとうございます。
父母会会員の皆様におかれましては、健やかな新年を迎えられたことお慶び申し上げます。

父母会は、発足から今期で二十六年目迎えることができました。

お蔭様で会員の皆様方の日頃のご支援、ご協力により各事業とも順調に推移しております。活動の内容につきましても会報、ホームページを通じて報告させて頂いております。

三月には、例年通り卒業パーティーを開催致します。先生方・職員・ゼミ仲間との学校を通じて培った絆をいついつまでも大切に、これからの社会生活の糧としていただければ幸いに存じます。

昨年は、平成から令和へと改元され新しい時代の一步を踏み始めた年

でありました。

振り返りますと、自然災害の猛威に見舞われた一年でありました。被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。一日も早い復旧、復興を心からお祈り致します。

明るい話題も数々ありました。吉野彰氏のノーベル化学賞受賞やスポーツ界での日本代表選手の目覚ましい活躍は、多くの国民に勇気と感動を与えてくれました。また、スポーツの感動だけでなく、日本のみならず外国人選手による被災地でのボランティア活動も心を動かされる話題でした。

父母会も「ワンチーム」となって各事業の企画運営等を行うための計画準備を吟味し活動して参りました。

近々の活動では、十一月に実施された創縁祭では父母会の喫茶室を校舎の十二階で開催。二〇〇余名の皆様にお立ち寄りいただきました。皆様、学校・父母会について少しでも興味を持っていただきましたでしょうか。

父母会は、本年も学生、会員の皆様、学校とのパイプ役として各事業を進めて参りますので、ご支援、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

結びに、父母会会員の皆様のご健康と幸多き一年でありますよう心から御祈念申し上げます。

父母会の皆様、その他本学関係者の皆様方に、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。日ごろから大変お世話になっております。二松学舎は一四三年目の年を歩み始めました。

年頭ですが、まずは昨年の設置校の学生応募状況を見ると、大学は文学部が定員の五・三倍、国際政治経済学部が定員の五・一倍、また両附属高等学校も定員比三倍から四倍の応募があり、いずれも一昨年比上昇し堅調に推移しました。また、文学部の偏差値が上昇傾向にあり、これまで本学より上位に位置していた諸大学のレベルを超えてくるなど、ブランドが上昇してきていること、国際政治経済学部の応募倍率も堅調に上昇を継続、定着傾向にあり、教職員をはじめ、ステークホルダーの皆様のご努力が実りつつあることは喜ばしい限りです。

さて、N'2030Planも今年で三年目に入りました。この長期ビジョンでは建学の精神に基づいた育成する人材像を、時代の先行き、AI等ニューテクノロジーによる経済・社会構造の大変革や多様性を展望し、「日本に根差した道徳心を基に、良質な知識と英語・中国語等語学力を身に付けて、我が国の歴史と文化を理解して、かかる知識を背景として、より良き社会を実現する目標を持って、グローバルに活動する逞しい人材」とし、この人材像を実現するため「二〇三〇年教育体制」を構築していくとの目標の下、大学カリキュラム改革を主要な柱として、進めていくことを決めました。

カリキュラム改革の概要は、初年次教育を両学部共通の必須科目とし、半年以上の期間を設け教養、歴史、哲学、英語、数理系の科目を配置。外国語、キャリア、数理データ、ICT各教育の充実、修熟度別クラス編成の実施、高大社接続を意識した編成。専門課程のゼミナールの必須化を骨子としております。この趣旨に従い副学長を

中心とするワーキンググループで詳細を詰めており、二〇二二年度からの施行を目指し、新たな人材教育を始める予定です。次に学部・学科の編成については、文学部国文学科・中国文学科の学生募集マーケットの潜在力が、今後どの程度まで持続していくか、その動向を見極めつつ、例えば社会歴史系学科等の新設を検討していく必要があります。これらは学部学科改編企画会議で骨子を議論していく予定です。

次に、今年の四月からは、学校教育法、私立学校法、国立大学法人法、修学支援法等高等教育関連の改正法が一齐に施行されます。先ず学校教育法の改正は、認証評価の厳格化です。認証適格か不適格かはつ

次に学校法人のガバナンスの充実・強化に關する私立学校法の改正です。理事・監事等役員はその責務、具体的には善管注意義務や法人・第三者の賠償責任を負う形となります。理事会や監事、評議員会の実質化等措置も導入されます。学校法人制度の運営も会社法にだんだん近づく形です。また国立大学法人法の一部改正もあり、国立大学の一人一大学制度が一人多大学制度となり、すでに名古屋大学・岐阜大学の連携推進法人等デファクトスタンダードが進んでおります。最後に授業料等無償化措置法案である修学支援法も施行予定です。このように高等教育関連の施策が一齐に打ち出される背景は、今後急激に進む少子化の

次に学校法人のガバナンスの充実・強化に關する私立学校法の改正です。理事・監事等役員はその責務、具体的には善管注意義務や法人・第三者の賠償責任を負う形となります。理事会や監事、評議員会の実質化等措置も導入されます。学校法人制度の運営も会社法にだんだん近づく形です。また国立大学法人法の一部改正もあり、国立大学の一人一大学制度が一人多大学制度となり、すでに名古屋大学・岐阜大学の連携推進法人等デファクトスタンダードが進んでおります。最後に授業料等無償化措置法案である修学支援法も施行予定です。このように高等教育関連の施策が一齐に打ち出される背景は、今後急激に進む少子化の

年頭所感

一四三年目に入った

二松学舎とN'2030Planの課題



理事長 水戸英則

きりと結論付け、不適格の場合は、評価機関から所轄庁である文部科学省への届け出事項となり、文科省から様々な報告徴求や調査が入ることとなりました。従って、各大学は、七年に一度の認証評価のほか、日頃から各規準に基づく自己点検を定期的に実施し、いつ評価を受けてもいように準備しておく必要があります。また同時に認証評価のポイントは、学習者本位の教育の展開と学習成果の可視化など「内部質保証」に重点が置かれてきます。大学は、学生を受け入れ、付加価値をつけて卒業させる、その学修成果をきちんと公表できる大学でないと大学として認めないという方針で設置基準が厳格化されていく方向です。

一方、AI等ニューテクノロジーが経済構造や社会構造をどう変化させていくか未知数のところがあり、こうした中における高等教育がどうあるべきかについて、様々な試行を行っているところの考え方があるものと思われま

いずれにしろ今後は、カリキュラム改革と教育・研究内容の充実による学生の付加価値の引き上げが第一であり、教育力のある大学に学生が集まり、補助金も増え、財務が良くなり、ブランドが上がり、勝ち残りつついく、逆にやらない先は淘汰されるのにも自己責任という方向を示唆しているように伺えます。従って、教育と研究の兼ね合いについては、得意、不得意があるわけ

すが、全体としては、教育により傾斜をかけていく必要があり、FD委員会での意見交換や教育の充実策の検討を含め、教学生体をその方向に誘導していく必然性を感じます。そうしなければ、本学も徐々に淘汰の道に追い込まれる懸念があるわけです。次に両附属校についても同じように、教員の指導力の向上や生徒全体の平均学力の底上げ、そのマネジメント体制の構築・強化が必要になって参ります。

二〇二〇年度の具体的目標は、まず附属高等学校は、①教育改革面では、新学習指導要領に基づく教育課程の具体案策定、外部英語試験のスコア向上対策、英検二級・準二級合格者の前年度比上昇、タブレットPCの活用方法、二松学舎大学への進学率の安定化、難関大学合格率の上昇等であり、②生徒支援面では、奨学金等各支援制度の拡充、③キャンパス整備面では、九段校舎建て替え計画の検討、柏グラウンドの設備充実策実施等です。次に柏中学校・高等学校においては、①教育改革面では、高校グローバルコース語学研修の継続実施、卒業時英検二級全員合格を目標、教員の定期研修実施を含むアクティブラーニング授業の効果検証・見直し、二松学舎大学への進学率の安定化、広報活動の強化(中学校開設一〇周年)、②生徒支援面では、特待生制度の改善検討、卒業時英検二級全員合格を目標とした学習指導の実施、生徒・保護者満足度の向上等、③キャンパス整備面では、東校舎修繕工事の実施等が掲げられており、これらの遅滞なき進捗が望まれます。

以上、新年度の課題、話題をお話ししました。本年も教職員の皆様は、各部署でそれぞれ、精励して頂きたくお願い申し上げます。また、卒業生、父母会や関連するステークホルダーの皆様に対しまして、引き続きご支援・ご協力をお願いして、新年のご挨拶といたします。



年頭所感

父母会 新年の挨拶として

学 長 江 藤 茂 博

年が改まり、新年のお喜びを申し上げます。また、旧年中、各地のご父母の皆様方に置かれましては、本学に多大なご支援を賜り心より御礼申し上げます。そして、何よりも学生諸君が、新しい年にふさわしい第一歩を踏み出すことを、私も教職員一同は強く期待しながら、教員の体制をさらに整えていく所存です。

日本の学校は四月始まりとなっておりますので、学生たちは学業生活の新年度と、この暦の上での新年を持つこととなります。ぜひご家庭では、学生たちには気持ちを新たにしていってもらい、自分自身の目標に向かっての第一歩をこの新年に手に入れてもらいたいものです。

元号が改められた年からオリンピックの年へと、大きな移り変わりが身を持って感じられる昨今ですが、二松学舎大学も、こうした大きな変動のなかで教育研究活動を、漢学塾

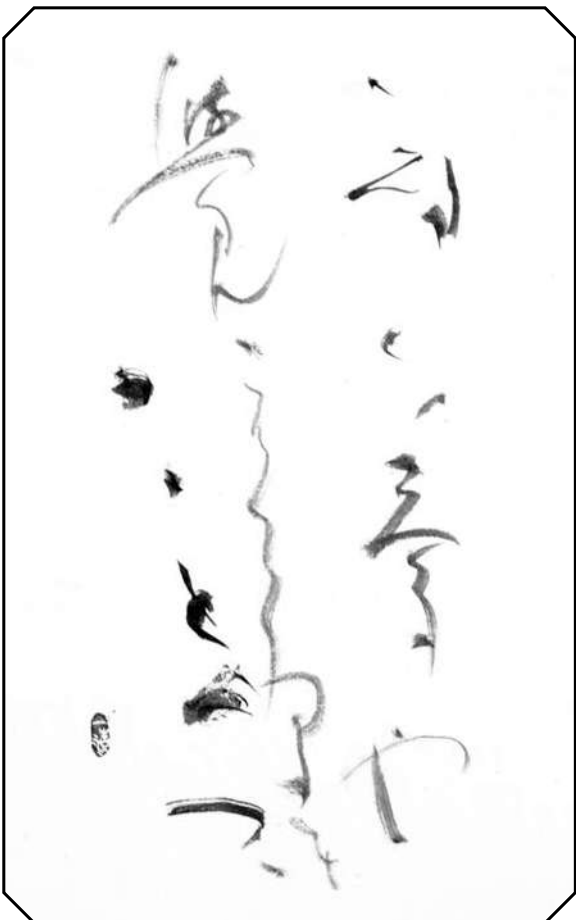
として創立後百四十二年間、また新制大学に移行後七十年もの間、この九段の地で続けております。それは学科名が同じであっても、同じ教育研究活動を繰り返しているということではありません。日々、学生たちの教育ニーズが変わっていくのは、やはり現代社会で求められるものが変化するからでしょう。つまり、高等教育の大衆化ということだけでなく、新制大学設置以来、大学が変わらぬ同じ役割を持っているとは思えません。教育研究の制度や内容もまた社会が変化していくなかで変わっていくものだからです。では変わらないものは何か、つまり教育研究機関にとっての不易とは何かを考えますと、人々の未習のものに対してそれを修めたいとする気持ち、人々の未知のものに対してそれを学びたいとする気持ちであり、またそれに対して教育研究機関がそうした人々の気持ちに十分に対応するということではないでしょうか。修めたいとい

う人々の気持ちや学びたいという人々の気持ちと、それに応える柔軟な教育研究機関を人々はいつも求めてきたということです。それが、二松学舎大学の七十年間でもあったのです。教育研究機関と言っても、時代や状況によって実際のかたちは様々に変わっていくものなのです。そして、二松学舎大学は今も変わり続けています。

そうした修めたいそして学びたいという気持ちに答えようと、私たち二松学舎大学で教学業務に携わるものは努力しています。そして、ここで学んで良かったと思う卒業生を送り出すことに教育研究機関としての

使命を持ってまいります。二松学舎大学は漢学塾を出発とする、日本で唯一の大学です。中国古典からの生き抜く力を学ぶ場として二十一世紀の今日を迎えております。大学の役割も形も伝え方も日々変わるとは思いますが、この生き抜く力を幾世代にも伝えていきたいと思っております。

旧年中は大学入学共通テストで教育界は何かと揺れた年でもありましたが、今年二〇二〇年が、二松学舎大学の学生たちとその関係者であるご家族の皆様にとって、より良い一年になることを祈念して、年頭の挨拶とさせていただきます。



初夢や 覚えてゐたき^(多) こと一つ (久保田万太郎の句)

●書 副学長 福島一浩 (文学部特別招聘教授)

あけましておめでとうござい
ます。どのような新年を迎えられ
たでしょうか。

多くの人は、風邪をひかないよ
うに手洗いうがいをしたり身体
を冷やさないようにしたりと予
防することの大切さを知ってい
ます。また、風邪は悪化してから
薬を飲んだり休んだりしてもな
かなか治りにくく、

ひき始めに早めに対
処したほうが治りが
早いことも学んでい
ます。このように、
幼少期から風邪につ
いての知識は学校で
も家庭でもしつけの
一つのように教えら
れてきましたし、経
験から学ぶ機会も多
くあります。

それに対して、心
の不調については、
あまり学ぶ機会がなく知識も少
ないことが多いように思います。
心の不調も、風邪と似ていると
ころがあります。日々のうまく
いかなさやストレスに対して「こ
れくらい大丈夫だ」「こんなこと
で弱音を吐かず頑張らなければ
いけない」などと目をつぶって
無理をしすぎると、ある時限界を

学生相談室

だより 107

カウンセラー 小野田奈穂

迎えて心の不調として表れます。
そして、これまで当たり前で
いたことができなくなり、そん
な自分にストレスがたまってさ
らに不調が続く悪循環に陥るこ
とがあります。そこまで辛くなっ
てからはじめて相談室にかけこ
んでくる人も多くいます。もち
ろん相談室では、少しずつ不調か
ら脱し普段の生活が

送れるように相談を
進めていきますが、
そこまで辛くなる前
にも相談室が力にな
れることがあるかも
しれません。風邪の
予防、ひき始めの早
めの対処と同じよう
に、心の不調も予防
や早めの対処が不調
を長引かせないため
に大切です。手洗い
うがいや風邪薬の代
わりに、少しストレスがたまって
いたり、小さい悩み事があったり
した時には、早いうちに気軽に相
談室を利用していただけたらと
思います。
ご家族の皆様も心配なことや
気になることがありますたらど
うぞご利用ください。

学生支援課から

○災害等被災学生支援

本学では、災害等により被災した
学生に対して、「災害等により被災
した学生に対する授業料減免の取扱
に関する規程」に基づき、授業料の
減免等支援を行っています。

台風十五号・台風十九号で被災し
た学生で、左記に該当するものが対
象となります。

- ・災害等の被災により、家計支持
者（保証人等）が死亡又は行方
不明となったもの
 - ・災害救助法適用地域に居住して
おり、家屋の罹災について罹災
証明書等を提出できるもの
- 減免額等については、被災の状況
に応じて決定されます。

○修学支援新制度

前号（父母会報一〇六号）で、住
民税非課税世帯・準ずる世帯を対象
とした修学支援新制度（授業料の減
免+給付奨学金の支給）についてお
知らせし、十二月十八日まで申請を
受付けていました。今年度の申請
は、終了していますが、対象者でま

だ申請をしていない二〇二〇年度進
学・進級予定者は、進学・進級後も
申し込むことができます。年度初め
のガイダンス期間中に開催される説
明会に必ず出席し、申込手続きをし
てください。

○授業料納入について

本学の授業料納入は、銀行振込と
なります。三月下旬頃に次年度の授
業料振込用紙を前期・後期分を合わ
せて、二枚お送りいたします。後期
分は大切に保管して下さい。納入期
限は、前期分が四月二〇日、後期分
が一〇月二〇日となっています。期
限までの納入が難しい場合には、授
業料延分納願の提出が必要となりま
すので、学生支援課でお手続きくだ
さい。

また、休学や退学をお考えの方
は、三月中に学生支援課にご相談く
ださい。

詳細については、学生支援課まで
お問い合わせください。

2019 創縁祭

11月2日(土)・3日(日)に、
二松学舎大学学園祭「創縁祭」が開催されました。

父母会役員会では、無料休憩所（喫茶室）という形で、毎年参加しています。伝統芸能、演劇、演武、発表、模擬店など学生たちのチームワークとアイディアの賜物をご覧ください。



創縁祭2019を終えて

学園祭実行委員長

文学部国文学科三年

宮下凌輔

十一月二日(土)、三日(日)の二日間に渡り創縁祭二〇一九を開催いたしました。

本年度は天気にも恵まれ、多くの来場者に足をお運びいただき、令和元年を華々しく飾る学園祭となりました。

OB、OGを初め、来場者の皆様からのアンケートには二松学舎大学らしい学園祭を楽しめたという言葉が多く、役員一同が参加団体の皆様と共に、理想の学園祭を創り上げることができたのではないかと感じております。

また、学園祭実行委員会に寄せられたご意見を参考にしながら、来年度以降も皆様に寄り添う学園祭を作り上げて参りますので、何卒よろしくお願いたします。

本年度もお力添えいただいた本学父母会の皆様、松苓会、学生支援課の皆様、教職員の皆様にごこの場をかりて御礼申し上げます。

三年間学園祭実行委員会での活動できたこと、様々な環境で活動させていただいたことを誇りに感じています。来年度以降も学園祭実行委員会をよろしくお願いたします。





アー リタリ キャンよ キセだ

57

●三年生向け『就活2021ガイド
ンス』を開催しました！

そのレジュメの抜粋がこちらです。
レジュメにもありますが、自分の将来を、自分のライフを大事にしたいのであれば、ワークを真剣に考えることが必要です。

●就職対策、多数準備しています！

先のレジュメ以外に、支援講座やイベントについても資料を配布しました。

●三年次生以外の支援も充実しています！

まず！
四年次生の未内定者には内定獲得

イベント、一、二年生向けには将来に向けてのキャリア形成を促すワークショップなど、年次に合わせた支援を行なっています。
また、学年問わず個別の相談にも応じております。専門職のカウンセラーがアドバイスします。

講座やセミナー、イベントや個別相談など充実させておりますが、主役は学生です。キャリアセンターは裏方でしかありません。主役が行動しないと活動しないと、何も始まりません。
キャリアセンターの支援を活用し、

各自の将来へ繋げていただきたいです。そのためにキャリアセンターは精一杯の支援・サポートをさせていただきます。

政府主導スケジュールと実際のスケジュール


相対	3月～ 企業の広報開始(企業説明会を解禁) 6月～ 企業の選考開始(面接選考開始) 10月～ 内定
実際の活動	3月以前 1dayインターシップと称した会社説明会 3月～ ES提出、筆記試験開始、企業の選考ピーク 4月～ 内々定 5月～ 採用2ndシーズン 10月1日 内定式

※実際の採用直前は倍計とわいてはいない！

就活が重要な理由

ワークとライフは切り離すものではなく、ライフの中にワークがある

ワークインライフ



ライフの充実にワークの充実が必要
ライフを大事にしたい人ほど、ワークを真剣に考える

創縁会 (学内合同企業説明会)

企業が大学に来て、会社のことを説明してくれる！二松学舎大学の学生のためのイベント！ここから縁が生まれる、将来に繋がっていく。

創縁会 (企業研究セミナー)	創縁会GP
1号館8Fで開催。大学にいなながら、たくさんのお客さん、いち早く出会うチャンス！職業見学会イベントです！	九段下のホテルグランドパレスで開催。最大規模のイベントです！
日時: 2/10(月)～2/26(水) (平日10日間開催) 各日13:30～16:00 各日9社、計50社を予定	日時: 2/28(金) 各日13:00～16:10 60社の参加を予定

OBOG在籍企業が多数参加します！創縁会にOBOGが来てくれる企業もあります！※『出陣式』に必ず参加してください。『出陣式』で参加企業一覧などを配布します。

2021で予想される事態

- 2020で内定辞退者が多数出た企業
→いい段階で内定を出した後、内定者懇話会をたびたび実施して関わりをしておく。
- 2020で応募者が少なかった企業
→インターンシップと称した企業説明会を随時実施。インターンシップ参加者に対して、早期選考参加特権をだして応募者集めに動く
- オンライン時期に採用活動ができない
→夏までに内定者を確保しないという意識から選考時期を早める・選考の開始を早く採用選考フロー

⇒3月中旬にES提出締切や面接が複数発生。業界研究含め時間的余裕は一切なくなる！

3月までに準備を万端にしておく必要がある

上記以外の支援(個別支援)

- 履歴書添削・ES添削・その他出願書類添削
添削は下書きの状態で持参してください。添削されることを前提にして、完成させようとするのではなく、未完成のまま持ち帰ってください。
- 模擬面接
受ける企業に提出した履歴書やESのコピーをお持ちください。
- 個別相談
就職活動だけでなく進路全般の相談や質問を受け付けています。

混むことがありますので、できるだけ予約を！

※予約方法は、キャリアセンター窓口、LINE@個人相談予約から
※混雑、本席は予約を優先させていただきます。

また、ハローワークと協力して、週1日、相談員を派遣していただき、各種相談と企業紹介も行っております。あわせてご利用ください。

出陣式

日時:
①1/7(火)13:00～14:30
②1/16(木)12:50～14:20
③1/17(金)12:50～14:20

合説をどのように回ればいいのか、就職活動で勝つための秘訣とは。
いよいよ、出陣。本番へ、いざ！
※創縁会の資料を配布します
※就職活動便利グッズを配布します

定員:①160名 ②③120名
※創縁会参加者は必ず、都合のよいいずれかの回に参加

主役は皆さん。

キャリアセンターは裏方。
就職活動というドラマがあったとして、キャリアセンターがいくらがんばっても、ドラマは生まれません。
皆さんが主人公です。キャリアセンターは支援・サポートです。皆さんの代わりに登場人物にはなれないのです。皆さんが動かなければ、ドラマは始まりません。
皆さんの将来を決めるのは皆さんです。キャリアセンターは、皆さんの将来へのための活動を、精一杯、支援します。

二松学舎大学 キャリアセンター
TEL: 03-3264-7997
学生相談専用メールアドレス: shu-katu@nishogakusha-u.ac.jp



高橋ゼミナール

高橋ゼミは、二〇一八年度に新設された一番新しい書道ゼミです。日々、作品制作に取り組みだけでなく、書に関する文献を読むことで、現在とは異なる価値観を学び、より深い作品鑑賞を目指しています。

三年次には、各自、好きな書人についての書の評論を輪読し、漢文を読む力を養います。ただ漢文訓読をするのではなく、書人についての知識も同時に得られるため、その書人の考え

や筆意、筆法も取り入れながら作品制作をすることができます。

四年次は、卒業作品の制作を中心に活動します。三年次で学んだ知識を活かして、古典技法を更に追求します。書人自らが語った言葉である書論を読みこむことで、作品に対する解釈を深め、表現方法や技術の向上を目指しています。

また、ゼミナールでは年に二回、二泊三日の合宿を行います。朝から晩まで書と向き合い、先生からご指導とご批評を頂くだけでなく、仲間

やキャラクターグッズを販売する店などに行き、日本との違いを感じました。合宿後、韓国で体験したこと

高橋先生は、制作だけでなく、過去の書人と向き合う姿勢も大事なことを教えて下さいました。ゼミ生と年齢が近いこともあり、勉強面以外にも相談できる、非常に心強い存在です。また明るく向上心の高いゼミ生が多いため、切磋琢磨しながら成長することができます。

このような取り組みをゼミ全体でおこなうことで、一人では気づけなかった点を発見でき、幅広い知識や



考え方も身につけることができました。仲間と本気で書に向き合い、書を通して様々なことを高め合えるゼミとなっております。

中国文学科四年 堀内 郁奈

足立ゼミナール

足立ゼミは、自由度が高く、自分と異なるジャンルを研究するゼミ生の発表から、様々な知見を得ることが出来るゼミです。今年度の三年生は「ジェンダー」をテーマとし、それぞれ関心のある事柄に関連づけて研究をしました。発表方法も、パワーポイントや映像を用いた普通の発表だけでなく、「Peahkucha」というスライド二〇枚×二〇秒の四〇〇秒でまとめる少し変わった発表を行うこと

で、プレゼン能力を養うことができました。足立先生は、美術史・視覚社会史に精通されていますが、歴史や文化など幅広い知識を持つていらっしゃるのので、いつもゼミ生の発表の後に今後の研究の参考になるお話をして下さいます。

ゼミ合宿では韓国を訪れ、文化や歴史などに触れました。比較的研究内容の近いゼミ生で班を作り、フィールドワークを行いました。歴史や民族学に興味のある班は歴史博物館や民族博物館に、アニメやゲームに興味のある班は本屋

やキャラクターグッズを販売する店などに行き、日本との違いを感じました。合宿後、韓国で体験したこと

改めて感じる事が出来ました。また、ゼミ生との仲も深



まり、とても楽しく、有意義なゼミ合宿でした。

来年度は、今年度の経験を基に卒業論文の執筆をしていきたいと思

国文学科三年 丸山 果凛

ゼミ 探訪



国際交流年々末懇親会



十二月七日(土)、二松学舎大学九段キャンパス一号館地下一階学生食堂を会場として、外国人留学生、教職員、父母会役員、日本人学生、など合計七十九名が集い、国際交流年々末懇親会を開催しました。

開会に際し、江藤学長から国際交流活動への父母会の支援への感謝及び留学生の積極的な異文化交流活動に対する称賛の言葉が述べられました。続いて、中澤父母会長の乾杯の発声により懇親会が始まりました。

今年には日本文化の体験行事として、マグロの解体ショーを行いました。威勢の良い掛け声とともに職人が大きなマグロを手際よく捌いていく様子が、初めて解体ショーを見た留学生は驚いた様子でした。マグロの頭部を切り落とす段になり、大きな包丁をいれるときには、会場にいる参加者全員が威勢よく「よいしょ、よいしょ。」と大きな掛け声をかけ大変盛り上がりました。その後、きれいに切り分けられたマグロを切り身にして、寿司として参加者にふるまわれました。

その後行われた学生からの発表では、本学留学生全員によるKPOP(韓国ポップ音楽)のダンスが披露されました。また昨年二月に中国・浙江工商大学での短期海外語学研修



に参加した日本人留学生が「外国語能力向上の秘訣」をテーマにした体験談を日本語と中国語で披露されました。

続いて、余興として行われた全員参加のビンゴ大会も大きく盛り上がるなど、全てのイベントが印象に残る懇親会となりました。参加者同士、マグロを背にした記念撮影を行うなど親睦も深まり有意義な交流の機会となりました。

最後に、王宝平国際交流センター長から閉会の挨拶があり、盛況のうち閉会となりました。



留学生との国際交流の会



国際交流センター主催の総合的な国際交流行事である「国際交流の会」を創縁祭当日十一月三日(日)に九段キャンパス一号館十一階にて開催しました。異文化交流の機会提供及び学内の留学機運の醸成を目的とする新たな試みとして、留学の魅力伝える行事「留学フェア」を併催しました。六〇名を超える多くの来場者でにぎわいました。

冒頭には、本学では初となる「漱石アンドロイド」による英語スピーチが披露されました。海外で過ごす大切さ、ロンドンでの想い出話などが語られると会場は大きな盛り上がりを見せました。発表会では、英国(ケンブリッジ大学)、豪州(サザンクロス大学)に留学した日本人学生と、中国(嘉興学院、浙江農林大学、鄭州大学等)及び台湾(中国文化大学)の外国人留学生が、「自国の文化の再発見」や「日本人・外国人に紹介したいもの」など異文化交流にまつわる同じテーマに沿って、自身の体験や意見を発表しました。ご参加いただいた父母会役員のみならずからは「とても初々しくてエネルギーが良かった」とのご意見をいただきました。また参加した留学生からは「夏目漱石先生にも会えるし、今まで体験しない経験がで



て、二松学舎大学に留学して本当に良かった」という声が寄せられました。

本学公式キャラクターのねこ松もサプライズで登場し、沢山の参加者が漱石アンドロイドとねこ松との記念撮影をしていました。終始、笑顔が絶えないあたたかい雰囲気行事となりました。



交換留学生便り

二〇一九年度派遣留学生として、韓国の成均館大学校に派遣された小林千恵さんに留学生生活の思い出、また二〇一九年度交換留学生の遊承翰さんから日本での大学生活について綴っていただきました。



小林 千恵

文学部 中国文学科 4年

▼留学で得たもの

私は、二〇一八年二月から一〇か月間、韓国の成均館大学校に留学しました。高校三年生で進路を決めるときに韓国語をやってみたいと思い、韓国への交換留学プログラムがある二松学舎大学に入学しました。最初は軽い気持ちでしたが、大学で韓国語を学んでいくうちに「留学したい」と思う気持ちが強くなりました。

韓国で過ごした一〇か月間、人、場所、出来事など、本当にたくさんのお会いがありました。

語学堂（大学付属の語学学校）では公用語の韓国語で、イギリス、フランス、イタリアなど世界中から集まった友達たちと韓国語で話すという不思議な空間でした。クラスはどのレベルも一〇数人程度であったため先生に質問や添削の依頼がしやすくなり先生のきめ細やかな指導を受け、知らず知らずのうちに韓国語の実力が上がっていききました。

九月からは一般の韓国人学生と一緒に大学の正規授業を受講しました。語学堂の先生のやさしく明瞭な声とは違い大学の教授方の早口で専門用語に溢れた講義は慣れるまでに時間がかかりました。受講した科目はどれも興味深いものでありましたが特に「統一問題の理解」は南韓と北韓が再び歩み寄りつつあった二〇一八年に受講し両国間を取り巻く環境について深く知り考える機会を得たことはとても意味深かったです。

留学を通して語学力が向上したことはもちろん、他の部分でも大きく成長できたように思います。家族や友達がいらない韓国での生活は私を積極的にするとともに精神的な自立を促しました。また自分が置かれている環境がとても恵まれていることに気づきすべてに感謝の気持ちが溢れました。韓国で生活していると様々な場面で日韓間の葛藤に直面しました。友達から日帝時代のことについて尋ねられたり、授業で竹島問題についての日本人としての見解を求められたりする中で自分の無知さに気づき日韓関係、また日韓を取り巻く世界情勢により関心を持つようになりました。韓国語を学んでいる日本人としてこれからもその部分について積極的に学んでいくつもりです。



ユウ 遊 ショウ 承 翰

台湾 中国文化大学 交換留学生

▼私が好きな日本

私は、台湾の中国文化大学からの交換留学生です。日本文化は台湾社会に深く浸透し、影響を与え続けています。小さい頃から日本のアニメやドラマを見たり、おでんや寿司等の日本食を食べたり、たまに「ありがとう」という日本語を使って他人に感謝を伝えたりすることが、台湾で生活している私にとっては、当然なことでした。台湾では日本文化はもはや不可欠なものになっています。

大学入学試験を受けた後、私は迷わずに日本語学科を選択しました。三年間日本語を勉強しましたが、一度も日本に来たことがありませんでした。去年の夏休みに愛媛県と台湾の交流を深めようと愛媛県議員の有志の皆様が取り組んだ「日台草の根交流事業」が行った交流イベントに参加し、四国の愛媛県に十二日間訪日しました。いつも学校で学んでいた授業とは違って、西日本豪雨で大きな被害を受けた西予市で泥出し作

業のボランティア活動を行ったり、ホームステイで地元の人と交流したり、川沿いに座って花火を見たり、茶道体験をしたりなど、中身の濃い時間を過ごしました。その一生忘れない経験により、私は学生のうちに、絶対に日本に留学に行く決意しました。

私は、今年の九月に二松学舎大学に留学に来ました。最初はなかなか慣れなくて、友達も作れなかったため困りましたが、国際交流センターの皆様が親切に面倒をみてくれて、サークル活動に参加すれば友達を作れるかもしれないということも教えてくれました。おかげ様で今日本人学生と共に受ける授業と日本語の授業両方も徐々にうまく進んでいて、中国語研究会（語文研）というサークルに参加して、気の合う友達ができました。語文研で互いに自分の言語を教えて、間違っているところを直してもらって、勉強のためだけでなく、同じ語学に興味を持っている友達とお喋りする時間は、大変意義があると思います。

今は来日してからちょうど三ヶ月経ちました。楽しい思い出ばかりではなく、失敗してしまったり、苦い思い出もありましたが、その失敗を糧にして、帰国した私を後悔させないように、一生懸命頑張っていて、この一年で最高の思い出を作りたいと思います。

大学の講義を受講してみませんか

二松学舎大学には、科目等履修生制度があり、大学の授業を広く一般の皆様にも公開しています。科目等履修生制度とは、大学で開講している授業科目(一〜数科目)を学生と一緒に受講し単位も取得できる制度です。本学学生のご父母の皆様にも、生涯教育の一環として一人でも多く大学の授業を受けて頂きたいとの趣旨から、登録料の免除、科目等履修料の減額措置を講じております。この機会に、是非お子さんと一緒に大学の授業を受けられることをお勧め致します。

- **公開科目**
学部・大学院で開講している授業科目のうち、原則として演習科目を除く授業科目を公開いたします。
- **募集要項**
二〇二〇年度の募集についてのお問い合わせは、二月になりましたからお願いいたします。
- **科目等履修料**
一科目 通年科目 三万円
半期科目 一万五千元
- **問合せ先**
二松学舎大学教務課
〇三(三二六一)七四〇六

- **写真サイズ** 縦4cm×横4cm
(証明写真でも構いません)
 - **提出締切日**
二〇二〇年一月三十日(木) 必着
- なお、ご提出戴けない場合は、学生氏名のみ掲載となります。ことをご了承ください。
- ※郵送の場合は、必ず学生番号と学生氏名を写真裏面に記載入下さい。
- ※詳しくは学生支援課(九段キャンパス一号館三階)までお問い合わせ下さい。
- 〇三(三二六一)七四二七

卒業パーティーの開催について

父母会では、卒業生の皆様のご卒業を祝し、また、在学中のお世話になった教職員の皆様への感謝の気持ちを込めて、卒業パーティーを開催しています。卒業生の皆さんは是非ご出席願います。卒業パーティーの内容は次のとおりです。

【日時】

二〇二〇年三月十六日(月)
十五時三十分〜十七時三十分
(受付 十五時十五分)

【会場】

ホテルグランドパレス
二階「ダイヤモンドルーム」
〒一〇二一〇〇七二
東京都千代田区飯田橋二一

【次第】

- 本学九段キャンパスより徒歩十二分
- 一. 開会
 - 二. 挨拶
 - 三. 乾杯
 - 四. 歓談・ゼミ写真撮影
 - 五. 閉会
- 歓談の時間を利用してゼミ毎の集合写真撮影時間を設けています。時間に制約がありますので、あらかじめ撮影順番を決めておられます。ご協力ください。
- 卒業生に皆さんには、「リボン」を必ず着用していただきます。「リボン」は卒業式当日に配布します。

卒業アルバム

個人写真撮影依頼

卒業アルバムは父母会より卒業生に贈呈します。卒業アルバム用の個人写真を大学で撮影出来なかった方は、左記の要領で学生支援課(九段キャンパス一号館三階)へ、ご提出いただきますようお願い致します。

再度、ご家庭で学生本人にご確認下さい。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。まず昨年の度重なる豪雨災害等により被害に見舞われた方々に置かれましては心よりお見舞い申し上げます。不安が募る中、国内で開催されたラグビーワールドカップでは日本チームの選手達に「ONE TEAM(ワンチーム)」の真の力に勇気付けられたことは、記憶に新しいところです。

いよいよ本年は東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。ラグビーワールドカップに続き「スポーツの力」で世界の平和、明るい未来へと繋がる素晴らしい大会になることを願っております。

十一月二日、三日に「創縁祭」が開催されました。学生の方々の活気に満ちた学園祭でありました。父母会も毎年恒例の喫茶室を開きました。多くの方々にご来場をいただき、たくさん感謝のメッセージをいただいた次第です。この場をお借りしてお礼申し上げます。

二〇二〇年(令和二年)、皆様にとって笑顔あふれる幸せな良い年になることを願っております。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。